

## 平成31年度（令和元年度） 新居浜市母子保健連絡協議会 議事録

日 時 令和元年7月31日(水) 13:30～14:30  
 場 所 新居浜市保健センター  
 出席者 委員 新谷・江盛・森田・中西・関谷・須藤  
 山中・高橋・曾我部・古川  
 事務局 近藤・伊藤・石見・東田・黒川ゆ  
 京野・原・和田・八木・山本  
 欠席者 森・近藤  
 傍聴者 なし

発言者	内 容
事務局	<p>ただいまから、平成31年度新居浜市母子保健連絡協議会を開催いたします。本日は、大変暑い中またお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>本協議会は、「新居浜市審議会等の公開に関する要綱」に基づき傍聴席を設けておりますが、本日の傍聴者はございません。また近藤委員・森委員から欠席のご連絡をいただいております。</p> <p>続きまして、今年度は委嘱換えの年になります。委員の紹介ですが、名簿順に自己紹介でお願い致します。</p> <p>(委員の自己紹介)</p> <p>ありがとうございました。次に事務局職員の紹介をさせていただきます。</p> <p>(事務局職員の自己紹介)</p> <p>引き続きまして、会長及び副会長を選出していただきたいと思っております。協議会設置要綱第5条により、委員の互選ということになっておりますが、どなたかご意見はございませんか。</p>
須藤委員	事務局案はないのですか。
事務局	ありがとうございます。事務局では、会長を新谷委員に、副会長を江盛委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。
委員	異議なし。(一同拍手)
事務局	<p>会長 新谷委員、副会長 江盛委員に決定いたしました。</p> <p>ではここからは、新居浜市母子保健連絡協議会設置要綱第5条2項に基づき、これからの議事進行を新谷会長にお願いいたします。</p>
新谷会長	<p>日頃から皆様には新居浜市の母子保健に関し大変ご尽力いただきまして、誠に感謝しております。それではさっそく議題に入りたいと思っております。</p> <p>議題1 平成31年度母子保健事業計画及び平成30年度実績について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	(平成31年度母子保健事業計画及び平成30年度実績について 説明)
新谷会長	<p>ありがとうございました。今までのことについて、何かご質問やご意見はございますか。</p> <p>産後ケアの利用が増えてきたと思っておりますが、どのような事例がありましたか。</p>

発言者	内 容
事務局	<p>平成30年度は11組の方が利用されました。最大7日間利用できますが、実際利用された日数は、1日間から7日間と様々で、利用日数の平均は約3.7日間でした。最大7日間利用された方の事例としては、家庭での睡眠が十分にとれていない方や、心身の疲労により清潔面に気が回っていないような方で、疲労回復を目的に利用されている人がいらっしゃいました。</p> <p>利用された方は、10組が初産婦さんで、経産婦さんは1組のみでした。宿泊型と日帰り型とが選べますが、41日間のうち、40日間が宿泊型ということで、ほとんどの方が宿泊型を選ばれています。</p>
新谷会長 事務局	<p>医療機関としては十全病院が多いですか。お産したところですか。</p> <p>空きベッドを利用してということですので4医療機関のうち3医療機関で実施していただき、各3～4組の利用でした。</p>
森田委員 事務局	<p>産後ケアの利用者の自己負担額というのはどのくらいでしょうか。</p> <p>宿泊型ですと、課税世帯で1泊3食付きで2,700円です。委託料の約1割負担になっております。新居浜市の料金設定は他市より低めで設定されていますので、利用者が他市に比べると多いです。</p>
新谷会長 事務局	<p>西条市はどうですか。</p> <p>西条市はまだ実施されていません。</p>
新谷会長	<p>他に何かありますでしょうか。なければ次の議題に移りたいと思います。</p> <p>議題2 子育て世代包括支援センターと各機関の連携について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(子育て世代包括支援センターと各機関の連携について 説明)</p> <p>続きまして利用者支援事業の取り組み状況と連携について、子育て支援課よりお願いします。</p>
曾我部委員	<p>(利用者支援事業の取組状況と連携について 説明)</p>
新谷会長	<p>ありがとうございました。今までの報告について、何かご質問やご意見がありましたらお願いします。</p> <p>ラトル(子育て支援コーディネーター配置)では身近な相談ができ、子育て支援課や保健センターなどの行政では専門的な相談ができており、相談内容の住み分けができていて、横の連携の大切さを感じています。</p> <p>5万円のオムツ券ですが利用者は多いですか。</p>
曾我部委員	<p>ほとんどの方が利用しており、昨年度は受け取られない方が1人おられました。第2子以降の出産かつ新居浜市在住の方が対象ですが、出生届出時や、児童手当や子ども医療費助成制度の申請の時には、オムツ券の支給申請を促しておりますし、その後も申請されていない方には郵便や電話でも申請を促しております。オムツ券5万円分というと1年分ぐらいあると思うので大変好評です。</p>
新谷会長	<p>5万円分は大きいですね。制度は知っていましたが、こちらから言っていないけれど皆さん知っているのですか。</p>
曾我部委員	<p>皆さんご存知です。</p>

発言者	内 容
新谷会長	<p>僕たち診療をしています、日頃の生活はわからないので、そのあたり保健センターや子育て支援課の方と連携して、また診療に活かせることが多々あるので、日頃から感謝しております。ありがとうございます。</p> <p>何かご質問ありますでしょうか。特にないようでしたらせっかく皆さん来られてますので、お1人ずつご意見いただけたらと思います。</p>
森田委員	<p>母子保健相談支援事業は、実績をパーセントでいうとどのくらいの達成率でしょうか。</p> <p>相談したくてもできない人、漏れてる人、妊婦健診でも未受診者対策はされていると思いますが、支援が必要なのにつながっていない人を様々な形で情報収集できるような形にできたらいいなと思います。</p> <p>母子健康手帳については、全員出産の前に受け取っているということで良いですね。母子健康手帳を受け取っていない方や、実際に受け取る方もまだまだいらっしゃる時代なのですか。</p>
新谷会長	<p>診療をしていて、ほとんどの方がある程度の時期に母子健康手帳を受け取っていると感じております。ただ、まれに受け取っていない方もいるので、どうすべきかというところではありますが、以前に比べたら減ったかなと思います。保健センターでは何かありますか。</p>
事務局	<p>母子健康手帳の交付ですが、19週までに99.3%の方が受け取っています。30年度の実績では20週から27週で3人、28週から分娩までで3人となっております。何人かは遅い時期に母子健康手帳の交付となった方がおられます。</p>
新谷会長	<p>妊娠届出をせず、妊婦健診を受けず出産に至ってしまう妊婦さんは、診療していても、表面にでないこともあるだろうし、なかなか難しいところですね。地域の方々から何か情報があがればという話はしていましたが、その辺を何か感じたことがありますでしょうか。</p>
事務局	<p>昨年度はそのような方はおらず、遅くても出産までには母子健康手帳を受け取りに来ていただけました。</p>
新谷会長	<p>生まれてから家庭環境に問題があるとか、経済的にすごくしんどいとか、家族関係がしんどいとか、潜在的にまだ把握できてない方がいるかもしれない、0ではない。それを医療機関では把握しようがないところがあるので、その辺の努力をより一層していかなければと思います。今年の事例で潜在的にこういう人がいたとかありませんか。</p>
高橋委員	<p>過去に飛び込みで出産されたケースの場合、社会と接点が非常に少なく、誰かが見て気づくという可能性が非常に低い状況でした。経済的な理由などもありましたが、どうしても行政や社会資源の関係者だけでは把握することは難しかったようです。</p>
新谷会長	<p>仕方ないところですよ。より連携をはかり、努力をしていかなければいけないと思います。</p> <p>歯科健診は何%ぐらい受けられていますか。</p>
事務局	<p>平成30年度の歯科健診受診率は、47.2%です。</p>
新谷会長	<p>産科医からも「歯科健診に行ってね」って言わないといけない感じですね。</p>
事務局	<p>口腔機能の衛生状態を保つということは、妊婦さんにとって大事なことですが、やはりどうしても妊娠初期は、悪阻などで、口腔衛生がおろそかになってしまうということもあります。先ほど説明しましたように、子育て世代包括支援センターでの電話連絡の際には、未受診の方に勧奨をしております。</p>

発言者	内 容
関谷委員	<p>はげみ園では早期療育、早期支援に取り組んでおります。1歳6か月児健診・フォローアップ教室にも参加させていただいて、新居浜市はかなりの発達障がいの子をスクリーニング、さらに早期からお母さん方の支援が充実してきているなど感じます。お子さんたちとはげみ園で早期療育として関わらせていただく中で、1歳6か月健診でスクリーニングされて、フォローアップ教室でお子さんの課題に気付いて、2歳から3歳ぐらいで繋がってきたお子さんの療育支援の結果を見ていると、うまく支援ができていないのではないかと思います。</p> <p>お母さん方にお子さんの特性の理解や関わり方、親子間のコミュニケーションが乳幼児期は大切であることを伝えており、そのことが子どもの成長、お母さん成長につながっていくのではないかなと実感しております。このような支援を通じて、就学に向けてお母さんが、自分で積極的にマネジメントに関わっていているような気がしております。今後とも保健センターと連携をしっかりと取って早期に障がい児の支援を充実させていきたいと思っております。</p>
新谷会長 関谷委員	<p>数年前グレーゾーンが増えたって話がありましたが、最近どうですか。</p> <p>診断がつくつかつかないかという方はいます。はげみ園に来る場合には障がい特性の濃い方や、自閉症スペクトラム障害の特性の濃い方が多い傾向です。グレーゾーンの方はなかなか療育支援の必要性を、保護者の方が気づくのに時間がかかる感じがします。重度の方ほど、困り感が多くて、保健センターのフォローアップ教室に来ていろいろな先生方、専門家から意見を聞いたりしている中で、お子さんの課題に気付かれる方が多いのではないかと感じております。</p> <p>グレーゾーンの方の課題を明確に認識していただき、療育的な支援以外にも支援が必要なお子さんは、保健センターの事業で、広げていけないのではないかと思います。私の思いとしては、診断を明確に欲しいなというのが正直なところで、早く気付けばその診断から、関りが密になっていくかなと思っております。</p>
須藤委員	<p>保育園は目の前の子どもと保護者に対応する現場だと思っています。すまいるステーションのようにいろいろな専門機関の方が連携をしてくださるといのがすごく心強く感じています。保育園がちょっと困ったときにすぐに連携できるこのような機関を大事にしたいと思っております。</p> <p>質問になるのですが、先ほど健康診査の時に上の子の相談を受けていますとおっしゃられていた点で、その割合や件数はわかりますか。</p>
事務局 須藤委員	<p>妊婦さんへの連絡の時になるため、件数までは拾っていません。</p> <p>保育園でも発達気になるお子さんがいた場合、そのお母さんが妊娠・出産の時期はナーバスになっているので、いつどういった形で話すのが良いか考えることがありました。妊婦さんへの連絡の時に声をかけて、お母さんの困ってることないですかと聞いたときに、上の子どものさんのことも何かしら話してもらったら、そこから園とも何か連携ができるかなと嬉しく思いました。またいろいろな形で連携していただけたらと思いました。</p>
山中委員	<p>自園で79家庭預かっているのですが、さまざまな家庭があります。一般論では対応できない家庭もあるので、オーダーメイドの対応が必要なんだと日々感じています。</p> <p>はげみ園や、発達支援課の方には本当に大変お世話になっています。グレーゾーンといわれる支援の必要な子はお母さんから相談を受けて、発達支援課に繋ぎ、発達検</p>

発言者	内 容
高橋委員	<p>査を受けて必要な支援をしていただきました。その後はげみ園での療育ですごく力を伸ばして、保育園という集団の場でもその子がぐんぐん伸びているのを見させていただいています。お母さんの中には、そういう場所に通うのがまだまだマイナスのイメージがあり、個々の対応をしてくれるのでお得感がいっぱいだよと思えばいいのですが、なかなかそのマイナスなイメージがあるのが園では悩みです。少しずつ、早期療育に繋いでいくのが保育園の役目だと日々感じています。</p> <p>発達支援課では、保護者からの不安な気持ちや、どうしたらいいのかということについて、相談に乗るうちに、相談者が安心したり、孤独感を少しでも解消できることで、子育てに少しでも前向きになれたりします。発達支援課は教育委員会の中にあるため、やはり福祉関係の十分な連携・情報共有は必要かなと思います。</p> <p>発達障がいもしくは、その疑いのあるお子さんへの支援者、学校の先生や、保育園・幼稚園の先生、もしくは保護者の方、または事業者の方に対して、専門性を高め、スキルアップを図るよう様々な研修会・講演を企画して、支援者の方の支援ではないですが、より多くの方に障がい者の支援についての知識や専門性を高めていただきたいと思います。年間を通して企画していますので、より多くの人に参加してほしいと思います。</p>
曾我部委員	<p>私も昨年から子育て支援課に配属されて思っていたのですが、市役所は待っている感が強いと思います。相談については、ウェルカムなのですが、待っていてもダメなので今年度はすまいるステーションのサテライト職員と利用者支援の職員も含めて子育て支援拠点施設に出て行った方がいいと年度末から言っていて、今年度は実際何回か行ってもらっています。やはり外に行くことで、現場のことを知るのも大切だと思っています。先ほど先生もおっしゃられていた、把握しにくい人について、子育て支援拠点や市役所の窓口に来て、しんどい・辛いと言える人は支援に繋がりがやすいですが、言えなくて自分の中に閉じこもってしまう人は、自分の子どもを虐待するリスクにもなるので、その人たちをどうにかして見つけたり、話しができないかと思っています。</p>
古川委員	<p>宣伝になりますが、子育て支援拠点施設8か所のフェスティバルを、今年度初めて11月30日に開催しようと思いい準備をしています。そこでは利用している方はもちろんですが、利用されたことがない人を掘り起こすことも考えており、あかがねミュージアムと一緒にしたいと思っています。関係各所にはチラシを配布させていただきたいと思いますので、皆さんご周知の方よろしく願いいたします。</p> <p>地域福祉課での障がい児の通所事業所の関係連絡会の中で、児童発達支援・放課後デイの事業所に最近の取り組みについて話していただきました。各事業所は児童発達支援と放課後デイサービスの両方を定員の範囲内で運営しています。親御さんの話を聞いていると、もちろん生活力を上げていくような支援を求めたいんだけど、目の前で成長していく子どもを預かってくれるだけでもいいという方もいます。また、療育をしてくれる事業所もある一方、疑問を持つ事業所もあるみたいだったので・・・事業所の一定水準の質が守られるようにローカルスタンダードの動きをしています。</p> <p>保健センターの取り組みではフォローアップ教室だったり、児童発達の相談の中で早期の発見というのをされていますが、保育園に行かれていない、もしくは、部分的に行って、発達支援を利用している方は、お母さん方からの児童発達支援自体の質を求める意見は、手をつけにくいのではないかと考えております。ですので、未就園の</p>

発言者	内 容
	分野だけで結構ですので保健センター側から見ての情報や、問題点があったら、この場でお伝えいただくというのはいかがでしょうか。事例を解決していくうえで、どういう水準の求め方、行政からのどの様な指導の仕方があるのだろうかと考えたいと思っておりますので、お願いしたいです。今言える事例、問題点、保健センターから見て気づいたことがありましたら、教えていただけたらと思います。何かございますでしょうか。
新谷会長	今なければまた改めてでも。
事務局	はい。
江盛副会長	すまいるステーションが新しく始まったということで今までにない母子保健サービスができるということで心強いかなと思います。
	医療機関の診療ではあまりそういうことに関わることは少ないかなと思いますが、妊婦さんが体調を悪くしたり、お子さんの受診時にはちょっとした相談がありますので、知っていたほうが相談には乗りやすく、言いやすいなと思います。
新谷会長	先生のところでも何か情報あればぜひ、保健センターにあげていただければと思います。
古川委員	市民の方の相談で根拠のない、もしくは民間療法についてお母さん同士で言い合っていたり、どこかの事業所が言っているとかを耳にすることがあります。これをやったら発達障がい治るよというようなことを耳にしたことはないですか。
新谷会長	それは民間療法ですか。
古川委員	民間療法だったり、まだエビデンスも確立していないようなものを勧めるとかですね。
新谷会長	今はネット社会ですからね。
古川委員	それを事業所がやるのは違うのではないかというようなことをお耳にしたことありませんか。相談とか。
関谷委員	別のサークルみたいなのを紹介されて、こういう内容っていうのはどうなんだろうかっていう相談は過去ありましたね。
古川委員	そういうのはあるんですね。
関谷委員	そのようなことは医学的では評価はされていないという、正直な意見はお伝えしたのですが、そのあたりどうなのかなというのはありましたね。
新谷会長	藁にもすがりたいという思いは絶対あるので評価は難しいですね。でも最終的にその人たちが幸せにどうやったらなれるか考えていかないといけないと思います。それはまた随時吟味していかないといけないですね。
関谷委員	治ると言われるとすがってしまうので、早くからお母さんには、お子さんに対する障がいの特性の理解が必要だと思います。
新谷会長	そろそろお時間ですので以上をもちまして本日の協議会を終了いたします。また本年もよろしくお願いたします。皆様本日はどうもありがとうございました。